

今回の瓦版では、平成29年11月30日（木）に郡山市役所本庁舎で開催され、約150名の方に参加していただいた「平成29年度地域づくり交流会」の結果についてお知らせします。県内各地での地域づくりの参考にいただければ幸いです。

平成29年度地域づくり交流会 開催報告

1 開会あいさつ ～地域づくり交流会の開催にあたって～

福島県土木部参事（復興・まちづくり担当） 寺木正宏

・本交流会は、県内各地で地域づくりに取り組む方々やまちづくり団体、市町村及び県職員などが地域づくりについて学び、参加者の交流を図ることを目的とし、平成16年度より開催している。

まもなく東日本大震災から7年になり「復興・創生期間」という新たなステージにおいて本県の復興、地方創生をさらに前に進めるため、地域が元気になること、そして元気を発信していくことが重要であるため、本交流会がそのきっかけになればよいと考える。



寺木土木部参事

2 基調講演

「まち育てに必要な覚悟」

弘前大学大学院地域社会研究科研究科長、教育学部教授 北原 啓司 氏

1 地域づくりと公共性

・公共とは Public のことで権力や行政を指すものではない

・溝口雄三著「一語の辞典 公私」では、もともと「公」と「私」は対立語ではなく、古代中国では「公」の共同性は民の「私」や「欲」の集積として存在していた。

・微分的世界で言うと「私」が輝きながら、関係性の広がりとして「公」が構築されていく。

2 まちを「つくる」人と「たべる」人

・これまでのまちづくりにおける住民参加とは、あくまで主体は「つくる」人（行政）で、できたものに対して「たべる」人（住民）が褒めたり、文句を言ったりするというものであった。



北原 啓司 氏

- ・住民にとって本当に必要な参加とは「つくる」ことに対して、住民が自ら素材の提供をし、受け皿づくりを行うこと、すなわち「まち育て」である。
- ・「まち育て」を支える、まちを「たべる人」の視点で考える時に陥りやすいのが、まちを上から覗いた視点（舞台の配置を平面で考える視点）である。しかし「まち育て」に必要な視点は、普段まちを歩くときの純粋な視点であり、これをどう活かしていくかが大切になってくる。



- ・「まち育て」のためのワークショップは、まちを「たべる」人の視点によって、地域の素材を見つけるための作業であり、身近な空間に住民が思いや夢を託すことができるものである。これはまちづくりのプロでなくてもできることで、私たち自信が、生活（たべる）のプロであるという誇りをもってこそできることである。

3 まち育てに必要な覚悟の事例

- ・青森県青森市佃气象台跡地公園計画や黒石市「こみせ通り」のまち育て、北上市口内地区のまち育ての事例発表。

4 未来に向けた覚悟とは

- ・これからの都市計画はで大切なことは
 - つくったものを、どう使って育てていくか
 - これまでとは違う形で、どう活用していくか
 - 農業とどう向き合っていくか
 - 放ったらかしの「空間」を、どう自分の「場所」に変えるか
これを考えていくことが「まち育て」である。

【基調講演に係る参加者アンケートから】

- ・改めてまちづくりや育てに係ることの「覚悟」について、その思いを強くした。
- ・市民参加型ワークショップにおける注意点について、上から見た目線ではなく、住民や通りを歩く人の目線でまちづくりを考える事等、大変参考になった。
- ・「まち育て」には、いかに住民の覚悟が必要かということが分かった。

3 事例発表会

「小田付の景観まちづくり」

会津北方小田付郷町衆会 郷頭 伊関 聡 氏

◆喜多方市小田付地区について

喜多方市と言えば、蔵とラーメンのまちとして知られるが、小田付地区は豊かな土地柄を利した醸造業、漆器製造、養蚕などが発達したため、蔵が増加した地区で、現在も座敷、店、作業場、厠（かわや）など多様な用途に使われた蔵が多数残るまちです。



伊関 聡 氏

この地区が蔵のまちとして有名となった背景には、写真家の金田実氏の作品の影響があります。

金田氏の作品には、蔵とともに生活する人々の様子が映し出され、その数々の写真を展覧会で見た多くの方が感銘を受けました。

そんな蔵のまち喜多方ですが、昭和57年ごろから観光客の口コミの影響で喜多方ラーメンが話題になり「ラーメンのまち」として一躍有名になりました。

その一方で蔵のまちとしての側面は衰退していってしまいました。

その後すっかりラーメンのまちとなった喜多方市でしたが、2001年、東京大学都市デザイン研究室の北沢教授やその教え子たちの活躍で、まちの人をたくさん巻き込んだ地域資源である蔵を活かしたまちづくりが行われました。

その後も地元の高校生と協働し被災した蔵の修復を行う「南町2850プロジェクト」を行われ喜多方の蔵を活かした景観まちづくりが行われました。

その功績が認められ「南町2850プロジェクト」は平成28年度都市景観大賞「景観まちづくり活動・教育部門」にて大賞受賞しました。

現在、喜多方市小田付地区は、かつての蔵のまちとしての賑わいを取り戻しています。



◆主な取り組み

- 初の歩行者天国イベント開催
- まちづくり寄合所開設
- 蔵のライトアップ設備新設
- 「まちづくり塾」開催
- のれんワークショップ開催
- 「花小経（はなこみち）」事業
- おたづき蔵通り社会実験実施
- 小田付地区景観協定締結（福島県知事より認定を受ける）
- 「担い手事業」にて、ブロック塀修景や被災蔵の修復と周辺の空き地整備実施
- 高校生の授業の一環として被災蔵の腰壁部を地元産の煉瓦で修復し、蔵の内部調査と片付け実施（2850プロジェクト）
- 地域づくり活動支援事業実施（平成25年度、26年度 区画整理協会）
- 小田付 風景づくりプロジェクト

【事例発表会に係る参加者アンケートから】

- 地域に対する愛情を感じた。それが力になることも分かった。
- 次世代の担い手である高校生と協働で取り組んでいる景観まちづくりが素晴らしいと感じた。
- 元々ある“蔵”という資源を用いて、学生と地域がうまく連携した取り組み例を聞いて参考になった。

4 事例発表会

「地域づくりへの参画 土木部職員も応援し隊！」

福島県土木部まちづくり推進課 主任主査 湯田 博文

地域づくりの目的は、地域に暮らす皆さんの「自分のまちを住みやすくしよう・住み続けられるまちにしよう」という思いを、地域に関わる皆さんが楽しみながら活動していくことです。地域づくりを進めていくためには、人と人の連携、人と地域の連携が重要です。このため、地域づくりは地域住民の皆さんはもとより、行政が有する得意分野を活かしながら、お互いに連携を図りながら協働で取り組んでいくことが大切です。



湯田 主任主査

土木部では平成16年度より「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」に取り組んできましたが、県管理道路沿いのポケットパークや、河川敷内での親水施設など、土木部管理施設の中での地域づくり支援に限られていました。

しかし、それ以外にも土木部職員自らが取り組む地域づくりとしてボランティアで参加している活動もありますので、各建設事務所の取り組みを紹介します。

地域に住まう人々にとって、地域づくりとは、「暮らし」そのものであって、地域づくりの担い手は、その地域に住まい、暮らし、訪れる「人」です。そのため土木部行政として地域づくりに参画するには、まずは職員が地域を知ることが大切なので、できる範囲で地域の清掃やイベント(祭り)にボランティアで参加し、地域活動と積極的に関わりを持っています。それにより、職員一人ひとりが地域との関わりを深め、地域の持つ自然・文化を理解し、地域の行事に自ら参加することで行政が何をすべきかを改めて考える機会としています。

●各建設事務所の取り組みについては、地域づくり交流会当日の資料をまちづくり推進課のHPに記載しています。以下のアドレスからご覧ください！

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41055b/machimachi12.html>

【事例発表会に係る参加者アンケートから】

- 各地域で土木部の職員がどのように関わっているか知ることのできる良い機会になった。
- 行政が地域と一体となって、積極的に活動(ボランティア)している姿に感動した。
- 県職員も市民。率先した取り組みは大変ありがたい。県から市町村への広がりを期待する。

5 自由交流

自由交流では、各地域づくり団体の方が中心となって、活動内容についてお話いただきました。

地域づくり団体が相互に情報交換できる良い機会になったと考えます。



自由交流の様子

【自由交流に係る参加者アンケートから】

- ・地域づくりの情熱や苦勞を共有できた。「場」は違うが、頑張っていこうと思う。
- ・地域づくりはいろいろな手法や考え方があり、参考になった。各地域づくり団体が経験したことを学べたのがよかった。

▼編集後記▼

地域づくり交流会は昨年に引き続き開催されましたが、今回は約150名の方にご参加いただき、地域づくりへの関心の高さを改めて実感しました。

たくさんのご参加ありがとうございました。

次年度も皆様からいただいたご意見を参考にしながら有意義な交流会を開催したいと考えております。

また地域づくりを進める上でのご質問等がありましたら、まちづくり推進課へご遠慮なく連絡下さい。



地域づくり交流会の様子

土木部メールマガジン登録随時受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、メルマガ登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>) からご覧いただけます。

メールマガジン(無料)の配信をご希望される方は
【土木部メルマガ希望または、解除】
をお書きのうえ下記アドレスまで
メール送信して下さい。



doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp

土木企画課(システム担当) 024-521-7886

【まちづくり瓦版 発行元】
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511
FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>